

残り、その他、甲田重信が描いた三十六歌仙図絵馬は、小野市垂井の住吉神社にも残る。

泊神社には、承応二年（一六五三）の伊織奉納の再興棟札が残り、そこには出自である米田村の田原家の縁で、泊神社の再興と米田天神社の整備を図ったことが記されている。泊神社には、宮本伊織らの寄進による三基の石燈籠も残っている。

### 30 三十六歌仙図絵馬 二面（三十六面のうち） 高砂市指定文化財

板絵着色 縦各五七・五 横各三六・五（内寸 縦各五五・〇 横各三四・〇）

江戸時代 承応二年（一六五三） 米田天神社（高砂市米田町）

米田天神社の社殿は、承応二年（一六五三）の泊神社の再興のとき、米田出身の宮本伊織によって整備されたとき、泊神社とともに伊織ゆかりの資料が伝わる。この三十六歌仙図扁額は三十六面すべて揃った歌仙図で、泊神社のものと同じく、宮本伊織貞次と舎弟の小原玄昌が、狩野探幽の門弟と称する甲田重信に描かせたものである。和歌は、竹門院良尚の筆による。歌仙の描き方は泊神社と同じであるが、背景が板目である泊神社のものに対し、米田天神社のもは歌仙の背景が白く塗られている。いずれも大切に保管されており、通常は見ることはできない。

### 32 六道図絵馬 一面

板絵着色 縦一四六・〇横一七九・〇（内寸 縦一一三・〇 横一六六・〇）

江戸時代 嘉永二年（一八四九） 教信寺（加古川市野口町）

教信寺旧観音堂に掛けられていた絵馬で、六道輪廻をわかりやすく図化している。中央に六道辻の道標を置き、上方に極楽浄土を、下方に地獄を配した図柄で、勸善懲悪を説いた教化の図としてもたいへんおもしろい。極楽では、豪華な宮殿の前に蓮台に座った往生者の姿があり、また、閻魔大王の前では、亡者が裁かれている。針の

山や血の池などの残酷な地獄のようすと、天女が舞う極楽浄土のようすが対照的である。

江戸時代中頃から、地獄絵の絵解きが、多くの寺で行われるようになったが、奉納絵馬の中にも、地獄世界の恐ろしさを描いたものもあらわれてくる。

#### 【画面墨書】

世話人 彌八郎／伊兵衛／傳五郎／新田 伊大夫／同 庄兵衛

#### 【梓部銘文】

奉獻救世大誓前／嘉永二己酉九月 施主北野村

### 31 地獄極楽図 一幅

紙本着色 縦二五七・一 横一八七・四

江戸時代（一八一―一九世紀） 時光寺（高砂市時光寺町）

時光寺に伝わる六道図の大幅である。昔は、絵解きに用いられていたものである。中央に人道を示す円を描き、その下に、僧侶を裁く閻魔大王の姿がある。画面の上方に天道（極楽浄土）、下方に地獄道、左右に修羅道、餓鬼道、畜生道を配し、来世観を絵画化している。特に、残酷な地獄の場面は多く描かれている。

天道以外では、随所の場面で地蔵菩薩が出現して、救済の手を差し伸べている。

### 33 神吉八幡神社祭礼図絵巻 一卷 加古川市指定文化財

紙本着色 縦二七・五 横九八〇・〇

江戸時代 文政三年（一八二〇） 神吉八幡神社（加古川市西神吉町）

神吉八幡神社に伝わる祭礼図絵巻で、江戸時代の祭礼行列のようすを、鮮やかな色彩で詳細に描かれている。シデ振り、御先太鼓、猿田彦に先導され、馬上の大小の頭人を中心としたふたつの集団が続き、総勢約二六〇人の行列となっている。この行列